

4. メンバーによる説明および質疑

(1)「優秀花火共演大会」の開催について

Ｌさん： 3月28・29日がドラゴンウォークで、初日の3月28日に花火大会を行いました。花火に先立ち土佐市伝統芸能の披露を行い、そのあと午後7時より花火大会本編に入りました。この花火大会は、四国で初めての試みで、高知、愛媛、徳島の3業者の協力を得て行いました。まず、花火の大きさとか花が開いたときの花火の種類を説明するレクチャー花火を行い、その後に花火競技大会に出展している全国の有名な花火を10玉と四国の3業者の花火との共演を行いました。予想以上に県内外のお客さんが集まり、本会場以外も合わせたら1万5,000人とか2万人は来ていたんじゃないかと思います。本会場のあちこちで「こんな花火見たことがない」という声が聞こえて、かなり盛況な花火大会ができたと思っています。開催後のアンケートでも「ぜひ続けてほしい」という声がほとんどでした。ただ多額の費用がかかるので、まだ次回の開催目途は立っていませんが、なんとか続けたいと思っています。県外からの観光客を呼ぶ点では、絶対的な効果があると思います。秋田の大曲の花火大会は約70万人の人が来るとのことなので、将来的には県や周辺広域市町村を合わせて、中四国一くらいの花火大会に育てたいと思っています。

知事： 四国の優秀な花火とは、どういうものなのか教えていただきたいです。

Ｌさん： 優秀というのは、県外の花火の大会、競技大会で賞を取っている花火業者や、全国大会の有名な玉を10玉集めて、あとは四国3県の花火業者の玉でスターマインとかと創作、共演する形で行いました。

知事： 確かに高知で、全国レベルナンバーワンの花火を見るということは難しいですね。それが見れるということは、ものすごい話題性があります。しかも、普通は7月か8月に開催しますが、3月にするというのですから。

Ｌさん： そうですね。ただこの日は、3月でもものすごく寒かったです。

知事： 事前に資料を読ませていただいて、なるほどと思いました。伝統芸能はその地域にしかない、しかも古来の伝統をずっと守り伝えていくべきもので、その地域に行かないと絶対に見ることができないものです。しかし、花火は確かに人を呼ぶ力はあるかもしれませんが、それぞれの地元でやっています。それでもなお県外から人を呼んでくるぐらいのイベントを目指すところがいいと思います。地元のイベントだからとりあえずやってみようということではなく、初めから射程を遠くに持ち、県外の人をもターゲットにし、開催時期もずらし、全国大会の作品も呼んでくる、そういう工夫をされたわけですね。

Lさん：　そうです。8月に開催すると、多分何軒かの花火屋さんは集まることができないので、時期をずらし、少し早目にやることで夏に花火を上げようと考えている市町村の担当者なども見に来ます。すると、土佐市の花火はすごいとなり、またどんどん宣伝ができるのかなというのもありました。

知事：　他にはない突き抜けたものを追求していこう、さらに時期をずらし、いろいろと工夫をしているところはすばらしいと思います。先ほどから地産外商と言っていますが、観光の場合は特に来てもらうことだと思います。ものが溢れている、イベントが溢れている地域から来てもらうには、やはり何か1つ優れていないと難しいと思います。全国大会出展の花火が見えるのは、四国でも多分ここだけじゃないかと思いますが。

Lさん：　そうです、四国でもここだけです。

知事：　そうですね。だからすばらしいと思いました。ぜひこれを契機に、地域の活性化とか、広がりが出てくるといいですね。

Lさん：　今回は宇佐で開催しましたが、人が増えてくるとどうしても宇佐だけでは狭くなってくるので、仁淀川あたりでドンと大きい花火大会をやりたいです。

知事：　観光のイベントとしてはすばらしいと思います。この花火の話ではなく、むしろ産業振興計画の解説だと思って聞いていただきたいですが、地域振興を図るには、一過性のにぎやかしのイベントでは駄目です。やはりその後しっかりと事業になっていく、ビジネスに発展していく、永続的に雇用と所得を生んでいくものでないと。県ではそういう発想でやっていこうとしています。例えば最初は県の補助がありますが、それが終わってもずっと続いていくような事業に育てていくことを、ものすごく重視しています。観光イベントの場合はちょっと違うかもしれませんが。ただ観光イベントも、人に来てもらうことで、他のお店の振興にもつながっていく形にもっていく、さらに言えば、観光ツアーの中に初めから組み込んで観光商品化していくとすごくいいと思います。

Aさん：　第1回目の花火大会でしたが、何とか続けてやりたいと思っています。中四国だけではなく、全国から人を呼んで、70万人、100万人が高知県へ来るような花火にしたいということがLさんの思いです。